

## 平成二十年度福祉体験作文コンクール優秀作品

愛知県社会福祉協議会の主催により、福祉活動やボランティア活動について児童・生徒から645編の福祉体験作文が寄せられ、その結果、県内で25の優秀作品が選ばれました。一宮市からも瀬部小学校1年の大橋結音さん、末広小学校3年の田中千尋さん、大和南小学校6年の伊藤佳穂さん、北部中学校2年の浅井まなさん、中部中学校3年の杉山さえ美さんの作品が入選されましたので、その中から一編をご紹介します。

(平成二十年度の学年です。)

### わたしのじいちゃん

一宮市立末広小学校 三年

田中千尋



わたしのおじいちゃん、大正十五年生まれで、八十二さいです。わかい時には、せんそうに行ったことがあると、おばあちゃんが言っていました。お母さんが子どものころは、

とてもきびしいお父さんだったそうです。そのおじいちゃんが、今年の一月九日、心ぞうほっ作を起こして、びょういんへ運ばれました。いろいろなけんさをしておじいちゃんには心ぞうが弱っていて、ちほうしようもひどいことがわかりました。

入いんして一週間たったころ、わたしは、はじめてお見まいに行きました。おじいちゃん、青い顔をしてねむっていて、からだにはいろいろななきかいや、

点てきがたくさんつけてありました。「おじいちゃん。」とわたしは小さい声でよんでみましたが、返事がないので、なんだかかなしくなりました。

二月になって、おじいちゃんのびょう気は少しよくなりました。わたしがお見まいに行くと、目を細くして「うん、うん」とうなずいてくれます。わたしは、もっとおじいちゃんに元気になってほしくて、バレンタインにプレゼントをすることにしました。妹と二人で、かわいいこ犬の絵がついたカードをえらんで、「おじいちゃん、早くびょうきがよくなるといいね。」と書きました。

おじいちゃんにカードをわたすと、ふしぎそうにじつと見つめていました。おばあちゃん、ベッドでねていてもよく見えるようにと、かべにカードをはってくれました。

三月にはいると、おじいちゃんはいぶ元

気になりました。そして、からだも元気になると、記おくも少しずつもどつてきたのです。

わたしがお見まいに行くと、「ちーちゃん。」とよんでくれるので、うれしくなりました。

でも、今どはおばあちゃんのぐあいが変わるようになってしまいました。おばあちゃんは、ずつとおじいちゃんのかんびょうをしようとしていたのでつかれてしまったのです。わたしは「かんびょう。わたしにも何か手つだえることがあるといいの。」と思いましたが、

それから、おばさんとお母さんが交たいで、おじいちゃんのかんびょうをしました。

それから二週間たつて、おじいちゃんはやつとたいいんしたので

す。今おじいちゃんは、一週間に三回、デイサービスに通っています。あばあちゃんも大好きなたつ球に、また行け

るようになりました。それでも、やつぱりおじいちゃんのおせわは大へんそうです。

わたしは、まだ子どもなので大人の人のようなお世話はできません。でもおじいちゃんちに行くと、「ちーちゃん顔を見ると元気がでるよ。」といつも言ってくれます。だからこれからも、おじいちゃんちにいっぱい行って、二人にいろんなお話をしてあげたいと思います。そして、大きくなつたら、もつとお手つだいができるようにになりたいです。



## 一宮市高齢者演芸発表大会を開催しました

“春は名のみ”の2月14日(土)に第12回一宮市高齢者演芸発表大会が萩原老人福祉センターの2階大会議室を舞台に開催されました。一宮市内から応募いただき抽選で選ばれた50組が出演されました。

演目はカラオケ、民謡、舞踊など。各自の持ち味を存分に披露される出演者の皆さんに、客席からは惜しみない拍手が。会場内は暖房など要らないくらい、熱気があふれていました。